

## <特集 巻頭言>

# “Life on Land”の基層—生命活動と外的自然との結びつき

杉山真魚

本誌第4号では、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=SDGs)のひとつ、第15番目に掲げられた“Life on Land”に着想を得て、「生命活動と外的自然との結びつき」をテーマとした。SDGsは2015年に国連サミットで採択された「2030アジェンダ」に記載されており、2030年までに持続可能でより良い世界を目指すために設定された17の目標である。ちょうど今、その目標に向けた折り返し地点を迎えているわけだが、状況はどうだろうか。例えば、日本ではSDGsに関する教育の重要性が叫ばれ、小学校においても環境や貧困などにまつわる諸問題が様々な教科で取り扱われるようになってきている。また、マスメディアでSDGsを喧伝したり、企業が自社のSDGsの取組を紹介したりする場面も多くなった。しかし、「持続可能性」や「開発」という概念に関する共通理解が醸成されているとは言えず、世界を構成する一員として目標達成に向けた実践ができていないかも疑わしい。「SDGs」という言葉は、2000年に入ってから我が国で流行語となった「エコ」同様に、形骸化の一途を辿るように思われる。「エコ」は生態学の論理としてのエコロジーが経済概念のエコノミーと結合し、エコロジーの有していた切実さが失われ、地球にも財布にも「優しい」という中途半端な意味をもつ言葉として定着したものである。SDGsについて、地球環境という途轍もなく大きなものを相手にしながらも、表面的な経済活動に軸足を置いて思考を続ける限り、その不整合が露見し、訴求力を失うだろう。2030年頃には新語が案出されるのかもしれないが、そこで、本号ではSDGsを改めて問い直す試みとして、目標のひとつに“Life on Land”という項目があることに注目した。日本語版では、「陸の豊かさを守ろう」と訳されている目標15であり、目標14「海の豊かさを守ろう(Life Below Water)」と合わせて、海洋資源や陸上資源を確保しながら生態系や生物多様性を維持するために必要な事項がまとめられている。目標14と目標15とで地球上の“Life”を包括できる枠組みになっているが、海洋、森林、土壌などの自然環境とともに遂行される人間の生命活動や文化活動も“Life”の一部であることを忘れてはいけない。

そのために、“Life on Land”あるいは“Life Below Water”を単なる定量的な自然物として扱うのではなく、人間と自然との関係性に立ち返って考える視点を提供したいというのが本号の趣旨である。各論者から、人類が地球上の諸地域で生きることの本質に迫る論考が集まった。

岡北論文では、建築のライフサイクルについて、サン・ピエトロ聖堂の造営事業を中心に論じられている。文化財の物質的保存とは異なる、聖性の保存という視点が示されており、究極的な持続可能性としての「永続性」という問題に読者を誘う。

田代論文では、テニソンの初期詩「トンプクトゥ」の特質が多面的に分析されている。サハラ砂漠の未踏の地として幻想的な存在であったトンプクトゥが西欧人によって発見されることをめぐる詩人の当惑感、現代の「開発」の不安定さを先取りしている。

石倉論文は陸と海の両者に関わる内容である。『バンクーバー航海記』の記録をもとに、バンクーバーがアメリカ大陸北西海岸の原住民との交流から行動規範を確立する過程を解明しつつ、他者との現在性の共有という根源的問題を提起している。

前田論文では、地域共同体の持続可能性に根拠を与えるものへの関心から、京都における地蔵盆という生活文化の継承問題が取り上げられ、実態調査の結果が検討されるとともに、「信仰」や「想像力」などの鍵概念が提示されている。

杉山によるエッセイでは、自然環境への愛着なくして SDGs を語れないのではないかという問題意識から、動植物を模様化して生活環境に適用した事例を追った。

近年、地球は地質区分上、人類の活動が気候変動や生物多様性に大きく影響を与える人新世という時代を迎えていることが指摘され、産業革命以来の成長や開発を前提とするパラダイムから脱成長への転換を唱える論者も出てきた。地球の現状を科学的に精査し、将来を予測し、対処することは大いに結構であるが、地球環境問題への取組のみが自然との関わり方であると考えられるようなことには疑問を覚える。上記の各論考では、世界の各地で丁寧自然や文化に向き合う人々の動静が掘り起こされているが、現代に生きる我々も身近なものであれ未知のものであれ、今一度事物や景物を見る目を養いたいところである。そのような心性が地球を覆って初めて SDGs に現実味が出てくる気がしてならない。